

温泉分析書

(鉱泉分析試験による分析成績)

報告書 No.13F1195
平成 25 年 6 月 7 日

申請者：(住所) 青森県つがる市大字中田袋字下道 4 番地
(氏名) むつ湾光ホテル株式会社 代表取締役 菊池 薫
源泉名：下道温泉
湧出地：青森県つがる市大字中田袋字下道 4 番地掘削、源泉にて採水

1. 湧出地における調査及び試験結果

- (1) 調査及び試験者：(株)環境保全試験室 角田 健一
- (2) 調査及び試験年月日：平成 25 年 5 月 17 日
- (3) 泉温：40.1℃ (気温：17.0℃)
- (4) 湧出量：218L/min (揚湯動力揚湯)
- (5) 知覚的試験：微黄透明、無味無臭
- (6) pH 値：8.9

2. 試験室における試験結果

- (1) 試験室：(株)環境保全試験室 伊藤 綾乃
- (2) 分析終了年月日：平成 25 年 6 月 7 日
- (3) 知覚的試験：微黄透明、無味無臭 (試料採取水 52 時間後)
- (4) 密度：0.9981g/cm³ (20℃/4℃)
- (5) pH 値：9.2
- (6) 蒸発残留物：0.321g/kg (110℃)
- (7) 電気伝導率：30mS/m

3. 試料 1kg 中の成分・分量及び組成

(1) 陽イオン

成分	mg	mval	mval%
水素イオン (H ⁺)	0.1	0.10	0.05
ナトリウムイオン (Na ⁺)	65.8	2.86	98.95
カリウムイオン (K ⁺)	0.3	0.01	0.24
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	0.3	0.02	0.69

成分	mg	mval	mval%
陽イオン計	66.6	2.89	100

(2) 陰イオン

成分	mg	mval	mval%
フッ化物イオン (F ⁻)	1.5	0.08	2.63
塩化物イオン (Cl ⁻)	43.6	1.23	40.46
水酸化物イオン (OH ⁻)	0.7	0.04	1.30
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	22.2	0.46	15.17
リン酸水素イオン (HPO ₄ ²⁻)	2.2	0.02	0.97
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	20.0	0.33	10.18
炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	25.8	0.86	28.29
陰イオン計	116.8	3.04	100

(3) 遊離成分（非解離成分）

成分	mg	mmol
メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	222.1	2.84
メタほう酸 (HBO ₂)	0.8	0.02
非解離成分計	222.9	2.86

溶存物質（ガス性のものを除く）：0.406g/kg

（溶存ガス成分）

成分	mg	mmol
遊離二酸化炭素 (CO ₂)	—	—
遊離硫化水素 (H ₂ S)	—	—
溶存ガス成分計	—	—

成分総計：0.406g/kg

4. 泉質：アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）

5. 禁忌症、適応症等は別表に示す

温泉分析書別表

- I. 源泉名：下道温泉
- II. 温泉所在地：青森県つがる市大字中田袋字下道4番地
- III. 温泉分析申請者：むつ湾光ホテル株式会社 代表取締役 菊池 薫
青森県つがる市大字中田袋字下道4番地
- IV. 泉質：アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）
- V. 禁忌症分類の泉質による禁忌症、適応症は次のとおりである。

1. 温泉の一般的禁忌症（浴用）

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、そのほか一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）

2. 泉質別禁忌症

一般的禁忌症に準ずる

3. 療養泉の一般的適応症（浴用）

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器疾患、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進

4. 泉質別適応症

一般的適応症に準ずる

5. 浴用の一般的注意事項

- ① 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。
その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。
- ② 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。
- ③ 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり（湯さめ又は浴後反応）が現れることがある。この場合には入浴回数を減じ又は1日ないし2日入浴を中止し、湯あ

たり症状の回復を待つこと。

④ 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。

ア. 入浴時間は、入浴温度にもよるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れたら延長してもよい。

イ. 入浴中は運動浴の場合を別にして一般には安静を守ること。

ウ. 入浴後は身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない（湯ただれを起こしやすい人は逆に温泉成分を洗い落とす）ほうが望ましい。

エ. 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。

オ. 次の疾患については高温浴（42℃以上）を禁忌とする。

（イ）高度の動脈硬化症 （ロ）高血圧症 （ハ）心臓病

カ. 熱い湯は高齢者にとっては負担になるので注意すること。

キ. 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。